

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 1 日現在

機関番号：23901  
 研究種目：若手研究（A）  
 研究期間：2009～2012  
 課題番号：21682005  
 研究課題名（和文） ろう者の人間開発に資する応用言語人類学的研究：アフリカ諸国の手話言語と社会の比較  
 研究課題名（英文） A study of applied linguistic anthropology for the enhancement of human development of the Deaf: Comparative study of sign languages and societies in African countries  
 研究代表者 亀井 伸孝（KAMEI NOBUTAKA）  
 愛知県立大学・外国語学部・准教授  
 研究者番号：50388724

### 研究成果の概要（和文）：

これまで調査がなされていなかったフランス語圏西アフリカのろう者コミュニティにおいて、フィールドワークによる手話言語、ろう文化および歴史の記載を行うとともに、研修を通じてアフリカのろう者による研究態勢の構築を行った。おもな成果は、以下の通りである。1) コートジボワールとトーゴにおける一次資料の収集。2) コートジボワール初の手話辞典の刊行。3) 日英仏 3 言語によるオンライン手話言語データベースの構築。4) フランス語圏アフリカ手話国際会議の主催。5) フランス語圏アフリカ手話研究所設立準備室の設立。

### 研究成果の概要（英文）：

In the Deaf communities of French-speaking West Africa, where no previous research existed, the sign language, Deaf culture and history were described with the method of fieldwork. Also African Deaf researchers were trained in the serial workshops and the research team by the Deaf was founded. Main results of this project are as follow: 1) Collection of the firsthand information in Côte d'Ivoire and Togo. 2) Publication of the first sign language dictionary in Côte d'Ivoire. 3) Construction of the online database on world sign languages in English, Japanese and French. 4) Sponsor of the International Conference on Langue des Signes d'Afrique Francophone (LSAF). 5) Foundation of the Group for the preparation of the foundation of the Research Institute for Langue des Signes d'Afrique Francophone (LSAF).

### 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	3,200,000	960,000	4,160,000
2010 年度	2,100,000	630,000	2,730,000
2011 年度	2,100,000	630,000	2,730,000
2012 年度	2,200,000	660,000	2,860,000
年度			
総計	9,600,000	2,880,000	12,480,000

### 研究分野：人文学分野

科研費の分科・細目：文化人類学分科 文化人類学・民俗学

キーワード：ろう者；人間開発；言語人類学；アフリカ；手話言語；フランス語圏アフリカ手話；コートジボワール；トーゴ

#### 1. 研究開始当初の背景

国際開発の分野における動向として、経済

開発から人間開発へと大きな思想的転換が見られる。この分野で文化人類学の方法と

視点をいっそう活かすことが期待されている。しかしながら、この潮流において正面から取り組まれていなかったのが、「ろう者における人間開発」のテーマである。

ろう者とは、手話を言語として話す耳が聞こえない人びとの総称である。世界各地のろう者の集まりが、地域によって異なる多様な手話言語を話していることが知られるようになり、近年ではその言語集団としての特性に注目した、言語学的、文化人類学的な研究などが進められている。

ろう者に関するテーマは、「耳が聞こえない」という特性に注目して「障害」研究の分野に含められることもあれば、「手話言語を話す」という点に着目して「言語」研究の分野に含められることもあった。しかし、この両方の特性をあわせもっているがゆえに、かえっていずれの分野においてもろう者の課題が十分に理解されて研究がなされてはこなかった。とくに、人間開発の観点からさまざまな取り組みが要請されるアフリカにおける研究事例は少なく、現地調査を通じた具体的な事例研究に基づく人間開発のモデルを構築することは急務であった。

## 2. 研究の目的

ろう者に関する先行研究が存在しなかった西アフリカ地域を事例として、文化人類学、とりわけ人間社会と言語の動態に関心を寄せる言語人類学の観点から、フィールドワークによる緻密な現地調査によって一次資料を入手することが第一の目的である。

また、その調査活動と研究成果を、現地の実践的諸領域（政策、学校教育、NGO 活動、社会福祉実践など）の現場に置くことで、文化人類学的研究がろう者コミュニティのエンパワーメントに対しいかなる寄与をすることができるかを明らかにする。これらを通じて、言語的マイノリティにおける人間開発を企図する国際開発実践と、文化人類学との今後の関係に関する新たな展望を得る。

## 3. 研究の方法

フランス語圏西アフリカのろう者コミュニティにおける参与観察調査を中心とした。あわせて、手話の語彙の撮影などの記録を行った。使用言語としては、当該地域のろう者によって広域的に用いられている、フランス語圏アフリカ手話をを用いた。

アフリカ現地のろう者たちに手話言語調査のための研修を行い、情報提供者としてのみならず、調査の一端を担う研究協力者としてこのプロジェクトに参加する機会を設けた。

合計 4 回の西アフリカ現地調査を行った。

- (1) 調査時期：2010 年 2 月-3 月

調査地：コートジボワール共和国アビジャン市

テーマ：ろう者コミュニティと手話言語に関する文化人類学的調査

- (2) 調査時期：2010 年 8 月

調査地：コートジボワール共和国アビジャン市

テーマ：ろう者コミュニティと手話言語に関する文化人類学的／言語学的調査

- (3) 調査時期：2011 年 8 月-9 月

調査地：トーゴ共和国ロメ市および諸都市

テーマ：ろう者コミュニティと手話言語に関する文化人類学的調査

- (4) 調査時期：2013 年 3 月

調査地：コートジボワール共和国アビジャン市

テーマ：ろう者コミュニティと手話言語に関する文化人類学的／言語学的調査、第 1 回フランス語圏アフリカ手話国際会議主催、フランス語圏アフリカ手話研究所設立準備室の発足

また、1 回の国際学会への出張を行った。

- (5) 渡航時期：2012 年 8 月

渡航先：カメルーン共和国ブエア市

目的：The 7th World Congress of African Linguistics (WOCAL7), Sign Language workshop (第 7 回アフリカ言語学会議・手話言語ワークショップ) での発表と情報収集

## 4. 研究成果

本プロジェクトのおもな成果は、以下の通りである。

- (1) これまで調査が行われていなかったコートジボワール共和国およびトーゴ共和国において、初めての手話言語調査を行い、語彙を収集した。
- (2) 両国において、当該地域の手話言語を使用言語として用いた参与観察調査を行い、同地域におけるろう者コミュニティの文化と歴史に関する一次資料を入手した。
- (3) コートジボワールにおける初の手話辞典を刊行した。
- (4) 日英仏の 3 言語による世界の手話言語に関するオンラインデータベース、Center for Asian and African Sign Languages (AASL) (アジア・アフリカ手話言語情報室) を構築し、インターネットで一般に公開した。
- (5) アフリカのろう者を対象とする調査のスキルを教授する研修を行い、人材育成

を図るとともに、アフリカのろう者による研究態勢の構築を行った。

- (6) La première édition de la Conférence Internationale sur la Langue des Signes d'Afrique Francophone (LSAF) (第1回フランス語圏アフリカ手話国際会議)を開催した。この国際会議は、本科研費補助金が主催し、コートジボワールの NGO である Society Without Barriers - Côte d'Ivoire (SWB-CI) が共催した。  
開催日: 2013年3月13日  
開催場所: コートジボワール共和国アビジャン市ヨブゴン、Ecole Ivoirienne pour les Sourds (ECIS) (コートジボワールろう学校)
- (7) 上記国際会議において、Le groupe préparatoire pour la fondation de l'Institut de Recherche sur la Langue des Signes d'Afrique Francophone (LSAF) (フランス語圏アフリカ手話研究所設立準備室)の設立が宣言され、研究所発足のための準備作業が開始された。
- (8) コートジボワールおよび日本におけるアウトリーチ活動を通じて、アフリカの手話言語の研究の重要性に対する政府、市民、ろう者当事者、専門職にある人びとの関心を喚起し、少数言語話者の立場に対する理解の促進に寄与した。

以上をまとめれば、本事業において西アフリカにおける手話言語の記載を行い [(1), (3)], あわせて、関連する文化と歴史の調査を行い [(2)], これらの成果をオンラインデータベースで世界と共有し [(4)], 人材育成とアウトリーチ活動における啓発などを通じて、アフリカろう者の人間開発における文化人類学的研究の有用性を試すとともに [(5), (8)], 国際会議と研究所開設準備によって将来への研究体制の確立を進めた [(6), (7)].

これらの研究の結果は、以下に示すように、雑誌論文 12 件、学会発表 17 件、図書 11 件ほかにより、日本語、英語、フランス語、日本手話、フランス語圏アフリカ手話の 5 言語を通じて世界に発信された。

これらにより、本事業の目的は達せられたと考えられる。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 12 件)

- (1) 亀井伸孝, 2012. 「コートジボワールにおける障害者政策と障害当事者の大臣、そして失脚: 『途上国障害者の貧困削

減』国際開発学会特別賞受賞にあたって」『アフリカ NOW』(アフリカ日本協議会) 95: 12-15. 【査読なし】

- (2) 亀井伸孝, 2011. 「人類学と開発研究: 「障害と開発」研究との対話」(特集「人類学を/で豊かにすること: 他領域との関係から人類学の拡張可能性を考える」)『九州人類学会報』(九州人類学研究会) 38: 89-94. 【査読あり】
- (3) 米田信子・若狭基道・塩田勝彦・小森淳子・亀井伸孝, 2011. 「アフリカ講座: アフリカの言語」『アフリカ研究』(日本アフリカ学会) 78 (2011.03): 43-60. 【査読なし】
- (4) 亀井伸孝, 2010. 「フィールドワーク入門: よりよい理解と信頼関係のために」日本聾史学会出版局編『日本聾史学会報告書第 8 集: 第 12 回福岡大会』45-59. 【査読なし】
- (5) 亀井伸孝編, 2010. 「特集・手話言語学の 50 年」『手話学研究』(日本手話学会) 19: 9-63. 【査読なし】
- (6) 亀井伸孝, 2010. 「少数言語である手話の研究倫理をめぐる動向: 日本手話学会第 35 回大会報告」『語学研究所論集』(東京外国語大学語学研究所) 15: 378. 【査読なし】
- (7) 亀井伸孝・米田信子, 2009. 「理解と進歩のためのアフリカ言語学: 第 6 回世界アフリカ言語学会議 (WOCAL 6) 参加報告」『アフリカ研究』(日本アフリカ学会) 75 (2009.12): 45-47. 【査読なし】
- (8) 亀井伸孝, 2009. 「日本手話学会第 35 回大会シンポジウム『手話研究のあり方を考える』報告」日本手話学会ホームページ (2009 年 12 月 15 日提出; 2010 年 1 月 4 日掲載). 【査読なし】
- (9) 亀井伸孝編, 2009. 「特集・手話研究の倫理」『手話学研究』(日本手話学会) 18: 1-46. 【査読なし】
- (10) 亀井伸孝, 2009. 「公務員無試験採用制度の達成と課題を中心に: コートジボワールの障害者の生計」『アジア研ワールド・トレンド』(日本貿易振興機構アジア経済研究所) 168 (2009.09): 28-31. 【査読なし】
- (11) 亀井伸孝, 2009. 「フランス語圏アフリカ手話の研究: DVD 手話辞典制作と成果還元の問題」『民族紛争の背景に関する地政学的研究 (LiCCOSEC)』(大阪大学世界言語研究センター) 8 (平成 20 年度報告書): 367-380. 【査読あり】
- (12) 亀井伸孝, 2009. 「少数言語とフィールドワーク: 調査者のアクションと倫理の検討」(特集「アクションを待つフィールド」)『九州人類学会報』(九州人類学研究会) 36: 14-25. 【査読あり】

〔学会発表〕(計 17 件)

- (1) Kamei, Nobutaka. 2012. Database of proper noun signs in Africa (Base de données des signes des noms propres en Afrique) (アフリカの固有名詞手話データベース). In: The 7th World Congress of African Linguistics (WOCAL7), Sign Language workshop (2012年8月23日, カメルーン, ブエア, ブエア大学).
- (2) 亀井伸孝. 2012. 「コメント: グローバル支援の人類学: 支援研究から人類学的支援へ」日本文化人類学会第46回研究大会, 分科会「グローバル支援の人類学: 支援研究から人類学的支援へ」(代表者: 鈴木紀)(2012年6月23日, 広島県東広島市, 広島大学東広島キャンパス).
- (3) 亀井伸孝. 2012. 「手話言語の成立と伝承: コートジボワールにおける手話辞典編纂の背景を事例として」日本アフリカ学会第49回学術大会, フォーラム「『音文化』は、『無形文化遺産』であるか、ありうるか?」(代表: 川田順造)(2012年5月27日, 大阪府吹田市, 国立民族学博物館).
- (4) 亀井伸孝. 2011. 「少数言語集団の人間開発と調査者の役割: コートジボワールのろう者ととともに」国際開発学会第22回全国大会, 企画セッション「支援のフィールドワーク」(代表者: 小國和子)(2011年11月27日, 名古屋市千種区, 名古屋大学).
- (5) 亀井伸孝. 2011. 分科会「支援のフィールドワーク: 『研究/実践』の二分法を超えて」日本文化人類学会第45回研究大会(2011年6月12日, 東京都千代田区, 法政大学市ヶ谷キャンパス)(分科会代表者および「趣旨説明」を担当).
- (6) 亀井伸孝. 2011. 「『危険な研究』?: 少数言語調査の政治と言語政策」日本アフリカ学会第48回学術大会(2011年5月22日, 青森県弘前市, 弘前大学).
- (7) 亀井伸孝. 2010. 「ろう者の人間開発における言語選択: どの手話を用いるべきか」国際開発学会第21回全国大会・第9セッション「障がいとジェンダー」(2010年12月4日, 東京都新宿区, 早稲田大学).
- (8) 亀井伸孝. 2010. 「開発研究と人類学: 『障害と開発』研究との対話」日本文化人類学会第44回研究大会, 分科会「人類学で/を豊かにすること: 人類学の拡張可能性を考える」(代表: 伊藤泰信)(2010年6月12日, 埼玉県新座市, 立教大学新座キャンパス).
- (9) 亀井伸孝. 2010. 「『アジア・アフリカ手話言語情報室 (AASL)』の構築: 手話のオンライン百科事典を目指して」日本アフリカ学会第47回学術大会(2010年5月30日, 奈良県奈良市, 奈良県文化会館).
- (10) Kamei, Nobutaka, Sanogo Yédè Adama et Tano Angoua Jean-Jacques. 2010. Promotion de la recherche sur la Langue des signes en Côte d'Ivoire. Dans: le 5ème Colloque Annuel de l'Institut de Linguistique Appliquée (ILA), Université de Cocody 《Linguistique ivoirienne: théories et pratique》(2010年2月25日, コートジボワール共和国アビジャン市ココディ, ココディ大学応用言語学研究所).
- (11) 亀井伸孝. 2009. 「フィールドワーク入門: よりよい理解と信頼関係のために」第12回日本聾史学会福岡大会(2009年12月20日, 福岡市中央区, 福岡市市民福祉プラザ(ふくふくプラザ)). 【学会招待講演】
- (12) 亀井伸孝. 2009. 「人類学と開発研究: マイノリティの人間開発に参与観察を活かす」第8回九州人類学研究会オタム・セミナー, セッションA「人類学を/で豊かにすること: 他領域との関係から人類学の拡張可能性を考える」(企画代表: 伊藤泰信)(2009年11月7日, 福岡県飯塚市, サンビレッジ茜).
- (13) 亀井伸孝. 2009. シンポジウム「手話研究のあり方を考える」企画・司会・解題. 日本手話学会第35回大会全体企画「わかり合える学会のために」(2009年10月31日, 東京都目黒区, 東京大学駒場キャンパス).
- (14) Kamei, Nobutaka. 2009. DVD dictionary of Langue des Signes d'Afrique Francophone: Descriptive study of Creole ASL in French-speaking Africa. In: Workshop on Sign Languages in Africa, World Congress of African Linguistics 6 (WOCAL 6) (第6回世界アフリカ言語学会議・アフリカの手話言語分科会)(2009年8月18日, ドイツ, ケルン, ケルン大学).
- (15) 亀井伸孝. 2009. 「生計調査におけるフィールドワークの活用: コートジボワールの障害者調査の事例」国際開発学会第10回春季大会(2009年6月6日, 神奈川県藤沢市, 日本大学).
- (16) 亀井伸孝. 2009. 「生態人類学と『障害の社会モデル』」日本文化人類学会第43回研究大会(2009年5月30日, 大阪市天王寺区, 大阪国際交流センター).
- (17) 亀井伸孝. 2009. 「コートジボワール共和国の障害者調査: 生計と労働」日本ア

フリカ学会第 46 回学術大会 (2009 年 5 月 23 日, 東京都世田谷区, 東京農業大学).

[図書] (計 11 件)

- (1) 戸田美佳子・亀井伸孝. 印刷中. 「カメルーンの障害者」嶋田義仁編『カメルーンを知る 60 章』東京: 明石書店.
- (2) 亀井伸孝. 2013. 「フィールドワーカーと少数言語: アフリカと世界の手話話者とともに」赤嶺淳編『グローバル社会を歩く: かかわりの人間文化学』(名古屋市立大学人間文化研究叢書 3) 東京: 新泉社. 200-237.
- (3) Sanogo, Yédê Adama ed. *Superviseur : Kamei, Nobutaka*. 2012. *Ecoute mes mains : dictionnaire de langue des signes*. Abidjan, Côte d'Ivoire : EDILIS. [総ページ数: 362 ページ]
- (4) 小國和子・亀井伸孝・飯嶋秀治編. 2011. 『支援のフィールドワーク: 開発と福祉の現場から』京都: 世界思想社.
- (5) 亀井伸孝. 2010. 「コラム・アフリカの手話」(155-156); 「言語」のうち「手話言語」(156-157); 「フォスター (Andrew Jackson Foster)」(335) 小田英郎・川田順造・伊谷純一郎・田中二郎・米山俊直監修『新版アフリカを知る事典』東京: 平凡社.
- (6) 亀井伸孝. 2010. 「コートジボワールの障害者の生計: 公務員無試験採用制度の達成と課題を中心に」森壮也編『途上国障害者の貧困削減: かれらはどう生計を営んでいるのか』東京: 岩波書店. 187-211. [2011 年度国際開発学会賞特別賞受賞]
- (7) 亀井伸孝. 2010. 「少数言語としての手話、少数文字としての点字: 多数派との共存のための戦略」広瀬浩二郎編『万人のための点字力入門: さわる文字から、さわる文化へ』東京: 生活書院. 151-162.
- (8) 亀井伸孝. 2010. 「実感されるろう文化: コミュニケーションの逸脱の事例」木村大治・中村美知夫・高梨克也編『インタラクションの境界と接続: サル・人・会話研究から』京都: 昭和堂. 110-121.
- (9) 亀井伸孝. 2009. 『手話の世界を訪ねよう』(岩波ジュニア新書 630) 東京: 岩波書店. [総ページ数: 219 ページ] [厚生労働省「児童福祉文化財」推薦図書]
- (10) 亀井伸孝. 2009. 「アメリカ手話とフランス語の接触が生んだ手話言語: フランス語圏西・中部アフリカ」梶茂樹・砂野幸稔編『アフリカのことばと社会: 多言語状況を生きるということ』東京: 三元社. 519-551.
- (11) 亀井伸孝. 2009. 「言語と身体の違いを越えて関係を構築する: アフリカのろう者

コミュニティにて」箕浦康子編『フィールドワークの技法と実際 II: 分析・解釈編』京都: ミネルヴァ書房. 74-90.

[その他]

#### 【成果公開、社会還元】

世界の手話言語データベース, Center for Asian and African Sign Languages (AASL) (アジア・アフリカ手話言語情報室) を構築し、ウェブ上で公開した。  
<http://aasl.aacore.jp/wiki/>

#### 【受賞歴】

- (1) 2011 年 11 月 26 日, 森壮也編『途上国障害者の貧困削減: かれらはどう生計を営んでいるのか』(分担執筆) 2011 年度国際開発学会賞特別賞
- (2) 2009 年 12 月 21 日, 『手話の世界を訪ねよう』2009 年度厚生労働省社会保障審議会「児童福祉文化財」推薦図書に選定

#### 【アウトリーチ活動】

- ・ コートジボワール共和国政府家庭・女性・社会福祉省障害者福祉局におけるレクチャー
- ・ コートジボワール共和国アビジャン市、ココディ大学応用言語学研究所および文化人類学講座の教員と懇談、今後の研究連携についての意見交換
- ・ コートジボワール共和国アビジャン市、ココディ大学の学生に対するレクチャー
- ・ コートジボワール共和国アビジャン市、コートジボワールろう学校オープンキャンパスゲスト講演
- ・ コートジボワール共和国アビジャン市、一般市民対象講演会
- ・ コートジボワール共和国アビジャン市、国立社会福祉研修所におけるレクチャー
- ・ コートジボワール共和国アビジャン市、ろう者団体における手話研究者養成研修会
- ・ コートジボワール共和国アビジャン市、手話通訳者との懇談会
- ・ アフリカ日本協議会 (AJF)・DPI 日本会議による学習会での発表

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

亀井 伸孝 (KAMEI NOBUTAKA)  
愛知県立大学・外国語学部・准教授  
研究者番号: 50388724

以上